WEEKLY REPORT

関中央ロータリークラブ

国際ロータリー第２６３０地区 東海北陸道グループ

2024～2025 年度　関中央ロータリークラブ　会長テーマ

「奉仕の実践を通じ、求められ、
必要とされるロータリアンに」

例会日 ： 毎週木曜日 18 時 30 分
例 会 場 ： 関観光ホテル 岐阜県関市池尻 91-2
会　長 ： 大藪　太
副会長 ： 土屋　敏幸
幹　事 ： 後藤　政之
会　報 ： 北原　慎
事務局 ： 岐阜県関市下有知 1655-1 山田ビル 1-D
TEL〈0575〉24-7332　FAX〈0575〉23-5278

前例会の記録　第 ２１７４ 回
2025 年 ４月 ２４日（木）
卓 話
岐阜新聞社 中濃総局長　野中　準二　様
テーマ『 新聞記事に学ぶ文章の書き方 』
担 当　国際青少年交換委員会

本日のプログラム　第 ２１７５ 回 例 会　２０２５年　５月　８日 （木）

卓　話　　**関商工高等学校 副校長 笠井　寛 様**

工業科教諭 牛丸 憲一 様

テーマ　　**『 関商工高等学校紹介と地域連携活動について 』**

担 当　インターアクト委員会

＊ロータリーソング
「それでこそロータリー」斉唱

＊会長あいさつ　大藪　太 会長

皆さん、こんばんは。今のお客様をご紹介致します。岐阜新聞中濃総局長　野中準二様、野中様には後ほど卓話をよろしくお願いいたします。さて４月 19 日(土)、長良川の岐阜グランドホテル下の河川敷に於いて、長良川環境巡視活動が行われました。岐阜県職員や岐阜市職員、また民間企業や各種団体からの参加者はざっと見たところ 100 名近くでした。午前

9 時 30 分に開始式があり、柴橋岐阜市長など来賓挨拶の後、長良川環境レンジャー協会の方の説明があり、その話の中でこれだけ多くの人が集まったのは初めてだといわれました。同じく話の中で、滋賀県からレジャーに来ていた人がいたので、「滋賀県には琵琶湖があるじゃないですか」と言ったら、「琵琶湖は汚くてだめですよ」と言われたそうです。関中央 RC が行う関観光ホテル下での清掃活動でも、最近はあまりゴミがないことを思うと、清流長良川の環境はこのような地道な活動によって守られていることを改めて実感致しました。清掃活動は約 30 分で終了しましたが、燃えるゴミが約 30kg、その他プラスチックや瓦礫を含めて約 190kg のゴミを収集しました。また 4／19、20 日の 2 日間にかけて「関祭り」が本町通りで行われました。19 日には「あんどんみこしコンクールが開かれ、子供会や自治会が工夫を凝らした多彩なあんどんみこしが会場を盛り上げ、20 日の表彰パレードと合わせて 2 日間で約 10 万人が訪れました。伝統ある「あんどんみこしコンクール」ですが、その歴史は結構古く、昭和初期にさかのぼります。昭和 3 年、昭和天皇の即位を記念して関の街で提灯行列が行われ、これが現在のあんどんみこしの原型になったようです。その後、昭和 26 年には観光協会によって「あんどんみこしコンクール」が始まりました。これにより、各地域や団体が趣向を凝らしたみこしを製作し、その出来映えを競うようになりました。コンクール製になると、あんどんみこしは単なる提灯の飾りではなく、地域の特色や歴史、世相などを反映した、より芸術的で独創的なものへと進化していきました。鵜飼い、関の刀鍛冶といった地元の文化や産業をテーマにしたものから、その年に話題になった人物や出来事をモチーフにしたものまで、様々なアイデアが形になって夜の街を彩りました。最盛期には 100 体以上のものあんどんみこしが出場し、祭りを大いに盛り上げました。各自治会や子供会、企業などが、趣向を凝らしたみこしを製作し、担ぎ手と共に街を練り歩く光景は、関祭りの大きな見所になりました。現代のみこしは伝統的な技法を守りながらも、LED などの新しい照明技術を取り入れるなど、時代に合わせた進化を続けています。近年は、少子高齢化などの影響により、あんどんみこしの担ぎ手や製作に携わる人が減少傾向にありますが、その美しさや熱気は今も健在であり、電飾で華やかに飾られたみこしが夜の街を巡行する様子は幻想的で、多くの観客を魅了します。関祭りでは、あんどんみこしだけではなく、県指定重要有形民俗文化財である浦嶋山車や加茂山車の巡行や春日神社の能舞台で奉納される、400 年以上の歴史を持つ古典芸能「どうじやこう」など、様々な伝統行事が行われ、街全体が祭り一色に染まります。今年特等を獲得したのは、6 年ぶりに出場した大門自治会連合会の「龍泰寺赤門」、寺の伝説にちなみ、赤門から龍や天狗、狛犬などが飛び出すものでした。また子供部門では金龍親友会子供神輿の「金龍子供ねぶた　ポケットモンスター（はもみん）」が 2 連覇、ポケモンと市のイメージキャラクター「はもみん」がかけ合わさったデザインの人形が登場するものでした。このように関祭りのあんどんみこしは、昭和初期のささやかな提灯行列から始まり、現代のような光の芸術へと発展しました。これからも人々の心を魅了し、地域をつなぐ大切な催し物として受け継がれていくことが期待されます。

＊卓話
岐阜新聞社
中濃総局長　野中　準二　様
テーマ 『 新聞記事に学ぶ文章の書き方 』

記者はどのように情報を集めているか?!

・プレスリリースや取材依頼
・事件・事故は警察からの発表文
・火災は消防からのメールや警察からの発表文
・日頃の付き合いで得た情報
・匿名・実名の情報提供
・ネット、ＳＮＳ、ＡＩ
・夜討ち、朝駆け、出待ち、入り待ち

記者の視点～記者はここを見ている

文章を書く前に

・文章を書く前に明確にしておく。
・なぜ、今書くのか。
・誰に伝えたいのか。
・最も伝えたいことは何か。
・何がニュースなのか。
・見だしをイメージする　仮見だしを考える。
・記事や文章に必要な情報、パーツを集める。
・１００聞いて全体像を理解して、１～３割でまとめるよう意識する。

新聞記事の書き方

・新聞記事は逆三角形。後ろの段落を切っても分かるように書く。
・リード（第１段落）に結論（最も伝えたいニュース）を書く。
・リードに意義を書く。それを決めた、あるいは行う狙いや目的。
・基本は５Ｗ１Ｈ。誰が、いつ、どこで、何をした。
・誰がより、何が、の方がニュースの場合、主語を工夫する。
・初めて読む人に分かるように、簡潔に書く。
・２段落目以降で情報の優先度を考えながら詳細を書く。

記事を書く際の工夫と注意点

・専門用語は極力、平易な言葉に置き換える。または枕ことばを付ける。
・新聞記事は客観報道なので、主観を入れずに事実のみを正確、端的に書く。
・接続詞は極力使わない。
・形容詞や修飾語を使うより、見たままの事実を書く。色、大きさ、匂い。
・言葉の重複に注意する。事前予約、約〇グラム相当。
・「など」は極力使わない。
・文体は統一する。
・主語と述語がつながっているかを確認する。
・述語は、名詞を動詞にする工夫も。
・言葉は意味を分かった上で、正しく使う。

この中で辞書に載っているのは、どれ？

・春色　・夏色　・秋色　・冬色

答え：秋色（シュウショク）

秋の景色。 秋の気配。 秋らしい趣。 《季 秋》 秋らしい色。 葡萄色や柿色など、秋を連想させる色。 〘 名詞 〙 秋の気配。 秋の様子。 また、秋の景色。

文章だけじゃない！写真の重要性

・写真の情報量は活字より多い。
・写真は１枚の原稿を撮るつもりで、パッと見て、誰が何をしているか分かるように工夫して撮る。
・主役は誰、何かを考えて構図を考える。
・左右、上下、引き、アップ。
・特に、紙面のどこに掲載されてもいいように左右は押さえる。
・撮影するタイミング、構図は事前に確認する。

まとめ

５Ｗ１Ｈ

・だれが、いつ、どこで、何をした。
・分かりやすさが大事。専門用語は極力避ける
・名詞を動詞にする工夫も。

結論から

・一番伝えたいことは何かを考え、リードの最初の一文で結論を書く。意義や理由を書く。
・後ろの段落を切っても、ニュースが伝わるように重要な情報は前の方に書く

チェック

・固有名詞、数字、漢字、言葉の使い方は最低２度は読み返す。
・一文字ずつ確認する。

事実を正確に

・事実のみを正確に、具体的にまとめる。
・主観ではなく、客観的に書く。
※メディアは原則、客観報道のため

＊出席委員会
会員 30 名、本日の出席 15 名です。

＊ニボックス委員会
・会長 副会長 幹事
野中様、本日はお忙しい中お越しいただきありがとうございます。卓話よろしくお願いいたします。
・高井 良祐 会員
本日は、国際青少年交換委員会担当の卓話です。岐阜新聞社 中濃総局長 野中様、宜しくお願い致します。
14 名のご投函ありがとうございました。

＊委員長報告
石原 妙生 次期国際奉仕委員長
２０２５ 年 地 区 ・ 協 議 会
奉仕プロジェクト部門委員会の報告
この委員会は社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕の三つの委員会です。主な内容は、補助金を活用して活発な活動を行い、上手に広報することで地域に知って頂く様にして頂くと良いです。社会奉仕・青少年奉仕としては「子どもの居場所づくり事業」の協力で「子ども食堂」等の活動に協力する様な活動が将来に繋がるのではないか。国際奉仕では、グローバル補助金の話が主な事でした。その他で一番強調して話が出た事は、「地区奉仕プロジェクト補助金（DCS）で補助金額は少額の 15 万円だが、地区補助金等と比べると比較的条件のハードルが低く、1 年で複数の申し込みも可能であり、周年事業や継続事業でも良いとの事。当クラブでも継続事業が有る為、利用することで予算的に少しは楽になるのではと思います。事例としては、志摩ＲＣの「秋のコンサート」交響楽団のコンサートを地元の中学生や一般市民と一緒に開催した。また、四日市西ＲＣの「子ども居場所事業者の情報共有と見学会」の実施等あり。

＜次例会の案内＞

５月１５日（木） 第 2176 回

『 夫婦同伴親睦・小瀬鵜飼例会 』

担 当 親睦活動委員会